



## よい 宵の明星 金星

西の空に輝くとても明るい星を見たことはありませんか？あまりに明るいので、飛行機や町の明かりと間違われることもあります。その正体は金星です。金星は太陽の周りを、地球の1つ内側の軌道で回っています。そのため太陽から大きく離れて見えることはありません。日没後に見える時は「宵の明星」、夜明け前に見える時は「明けの明星」と呼ばれます。今年は年末まで宵の明星として見え続けます。



西の空の金星 2021年8月28日  
田中千秋(まるちたいけんドーム解説員)撮影

金星と地球の距離は、近づいた時は4300万キロ、遠ざかると2億5800万キロと6倍もの開きがあります。でも明るさはそれほど変わらず、暗い時はマイナス3.9等級、明るい時はマイナス4.7等級です。なんだか不思議ですが、金星の輝いている部分の面積と距離との関係で、地球から見る限り、あまり変わらないという結果になりました。つまり金星はいつも明るいのです。

現在、金星は太陽からの離角(見かけの距離を角度で表したもの)が大きくなっています。そして10月30日に東方最大離角(47度)を迎えます。ひと月後の12月4日には最大光輝(最も明るく見える:マイナス4.7等)となります。すでに夕方の西の空に明るく見えるので、ぜひ眺めてみてください。スマホやデジカメでも写りますので、トライしてみましょう。

2021年9月3日記 (解説員:田部 一志)